

土岐市総合教育会議 議事録

1 開催日時・場所

令和5年12月19日（火）午後1時30分から
土岐市役所2階 大会議室2A

2 次第

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 教育長あいさつ
- (4) 協議・調整事項
今後の学校施設の在り方について
- (5) その他
- (6) 閉会

3 資料

学校施設の現況について

4 出席者

土岐市長 加藤 淳司

教育委員会

教育長 山田 恭正
教育委員 酒井 真吾
教育委員 大橋 廣
教育委員 大野 良子

教育委員会事務局長

太田 弘

教育次長兼教育研究所長

兼学びのICT支援室長

河合 広映

教育総務課長兼学びのICT支援室次長

加藤 貴史

生涯学習課長兼読書活動推進室長

安藤 算倫

文化スポーツ課長

神戸 牧子

給食センター所長

林 孝子

図書館長

仙石 純也

健康福祉部子育て支援課長

辻野 まどか

総務部行政経営課長

林 希由

土岐市立濃南小・中学校長

本多 直也

(事務局)

市長公室長

水野 健治

市長公室次長兼政策推進課長

熊崎 直美

市長公室政策推進課課長補佐

中垣 博之

市長公室政策推進課政策企画係長

本間 陽子

市長公室政策推進課

澤 賢信

5 傍聴者 5 名

6 議事進行の記録

次ページ以降に記載

◆議事進行の記録

《開会 午後１時３０分》

○司会（熊崎政策推進課長）

皆さんこんにちは。定刻になりましたので、ただいまより令和５年度土岐市総合教育会議を開催いたします。

教育委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところ、ご出席いただき、誠にありがとうございます。本日は加藤教育委員が欠席されることを報告いたします。本日の司会進行を務めさせていただきます、土岐市政策推進課長の熊崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本会議は、土岐市総合教育会議運営要綱に従い、進めさせていただきます。会議の傍聴につきましては、同要綱第５条第２項の規定に従い、土岐市教育委員会会議規則に基づいて実施することとしています。現在のところ、５名の傍聴者がいらっしゃいます。

総合教育会議は、学術文化の向上や教育の条件整備など、重点的に講ずべき施策や、児童、生徒等の生命及び身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置などについて、首長と教育委員会とが十分な意思疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有し、より一層民意を反映した教育行政を推進するための協議や事務の調整を行う場となっています。

本日は、次第に記載のとおり、「今後の学校施設の在り方について」をテーマに意見交換をいただくこととしております。それでは、さっそく次第に従いまして進めさせていただきます。

はじめに、市長よりごあいさつ申し上げます。

○市長

皆さんこんにちは。本日は令和５年度の総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

先日１２月４日に濃南小・中学校の小中一貫教育と小規模特認校制度についての視察をいたしました。教科担任制や教科別の専門教室、チーム担任制など新しい取り組みを見させていただいて、学問に限らず文化活動にも良い影響があったという話もあり、素晴らしい取り組みだと感じました。濃南だけでなく、土岐市全体を見渡してみてもこのような取り組みをしなければならぬ状況になりつつあると思いますし、濃南小・中学校も５年後、１０年後に同じように取り組めるのかといえなかなか難しいかもしれません。

市議会の定例会でも提案させていただきましたが、教育委員会を学校教育に特化した組織とし、社会教育や生涯学習の分野を市長部局に移動する方向での機構改革を考えております。機構改革により教育委員会と市長部局の役割が変わってくることから、総合教育会議に限らず連携していくことが重要だと感じております。

児童生徒が減少していく中で、学校の空き教室がだんだんと増えている状況ではありますので、地域のコミュニティに活用できないのかという考えも出てくるのではないかと考えております。施設面でどのように有効活用していくのかも重要になってくると思いますので、ご審議の方をお願いいたしまして、冒頭の私のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。続きまして、山田教育長からごあいさつをいただきます。

○山田教育長

本日は市長をはじめとする市長部局に総合教育会議を設定していただき、ありがとうございます。

今、市長のごあいさつにもありました濃南小・中学校での取り組みについて、本日、濃南小・中学校の本多校長先生がいらっしゃるの、意見も聞いていただきながら、土岐市の教育をどうしていくのかを考えていただければと思います。教育委員会においても濃南小・中学校の先進的な取り組みの成果をどのように広めていくのかを考えながら取り組んでいるところでございます。

今回、学校施設の在り方をテーマとしていただきましたが、今まで取り組んできた教育の手法が少子化により難しくなっていくと感じておりますし、また、最近、学校訪問へ行くとタブレットを使って授業をされていて昔と違って生徒の考えを端末上ですぐに共有できるといったように、ICTにより授業も大きく変化していると感じます。そういう時代なので学校における教育の方法論は転換期を迎えていまして、教育環境や施設の方も抜本的に発想を変えていかないといけないと思っています。そんな中でこのテーマを選択していただいたので、本日の総合教育会議を発端に第三期の土岐市教育振興計画を考えなければいけないと思います。何とかいい出発点になるようにご意見をいただけたらと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。

それでは、次第4「協議・調整事項」に入りたいと思います。テーマは「今後の学校施設の在り方について」でございます。

市では、市が保有する公共施設等について「公共施設等総合管理計画」の中で管理運営方針や今後の施設方針を定め、安全・安心かつ計画的な管理に努めております。学校施設についてもこの計画の中で方針を定めており、基本的な維持管理は予防保全により計画的に行っていくものとし、耐用年数経過時には児童・生徒数の減少に伴う施設規模の縮小化を図るため、施設の統合・複合化を検討するとしています。

既に耐用年数を経過している学校施設もありますので、本日は、土岐市の児童・生徒数の推移や学校施設の維持管理の状況を把握し今後の検討のための課題を共有する場としたいと思います。

それでは、意見交換に入る前に、土岐市における学校施設の現況について、教育委員会事務局からご説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○教育委員会事務局（加藤教育総務課長兼学びのICT支援室次長）

【資料「学校施設の現況について」に基づいて説明】

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。

それでは、ただいま説明のあった土岐市の学校施設の現況について、皆様からご意見やご感想

をいただき、今後の検討のための課題を共有していきたいと思います。委員の皆さまのご意見を、ぜひお願いいたします。

○酒井教育委員

私は駄知出身なのですが、速いスピードで人が減っているのを実感しており、10年後には町で人を見かけなくなるのではないかと考えています。駄知町の話になってしまいますが、以前駄知中学校を改修してもらって、自分の通っていたころのプレハブの建物に比べたらきれいになっているのですが、こども園は小学校の敷地内に集約されるので、濃南と同じように中学校もいずれ集約されるのでしょうか。集約したとしても空き教室は出てくると考えられますので、こども園の送迎にきた方のためのサロンを設けたり、駄知町のまちづくりの一環として何か設置してほしいと考えています。駄知町のまちづくり関連の組織はメンバーが固定しているため、子育て世代の親を取り込んで話し合いをしていくことで、少しでも良い方向に進んでいくのではないかと考えています。

○司会（熊崎政策推進課長）

今お話いただいた中では、学校を違った形で活用するのが良いのではないかという意見が出ました。その他にご意見がある方はいらっしゃいますか。

○大橋教育委員

今回は学校の施設についてという非常に幅広いテーマだなと思うのですが、先日、濃南小・中学校に訪問した際に、授業の進め方や教科担任制等どれもうまくやれていると思いました。それは小規模だからできるという考えではなくて、5年後10年後には土岐市の学校はすべて小規模校になってしまうということなので、5年後どうしていくのかを考えないと、第三期土岐市教育振興計画の策定にも影響してくると思います。小規模でなくても、小中一貫校は全国でできています。3年前に姫路へ視察に行った際に、大規模な9年制の義務教育学校を訪問したのですが、規模は関係なく、方法によっていくらかでもできることがあると思いました。濃南小・中学校でも取り入れられている教科担任制で、体育や音楽、美術のほかにも、英語や理科などを専門の教師が教えることで教育の質が大きく変わると考えました。土岐市の規模であればしっかり整備すればいいものができるのではないかと考えています。使わなくなった施設の使い道の事例としては、コミュニティセンターや移動図書館など様々な使い道があると、以前教育長が仰っていましたが、次なる段階で考えると駄知町の小学校か中学校にちょっと施設を増築して活用したり、肥田町も空いた土地を削って校舎を増設したりして一貫校として運用できるのではないかと考えています。その他の方法はないか調べたところ、西濃では連携校制度と言って小学校と中学校が連携しており、教科担任制や行事を合同で開催するなどしているとのことでした。土岐市も5年後は全校小中一貫校化を目指す計画を立てることを考えてはどうかと思います。

○市長

いろいろとご指摘をいただきましたが、濃南小・中学校は物理的に近いことから小中一貫校として大変やりやすい環境であるということ、駄知と肥田は物理的にひとつにまとめられそうなど

ころかもしれませんが、泉や土岐津は規模が大きいので先ほど挙げられました連携校制度の運用が考えられるのかなと思いました。また、教科担任制など良い要素をまずは取り入れていって、施設が老朽化したら一校でというような、まずは現存の施設を利用しながらやっていくことも一つの方法かと思いました。

○山田教育長

市長が仰ったように、現在ある6校区すべて同じ扱いで行うのは、現実的に難しいと思います。物理的に近いところはまとめて、土岐津と泉のようなところは分離校としての在り方を考えていくのが良いかと思います。小中一貫校の一番のメリットはやはり教科担任制であり、教育面で効果が表れています。濃南小・中学校以外でも、市の経費で3人ほど教科担任をつけてもらいましたが、これも効果が表れています。やはり教育の効果は先生で決まる部分が多いことから、分離校みたいな形にしてしまうと先生の交流が無くなってしまうのでそこをどう調整していくかという課題はあります。

○大橋教育委員

先日の視察の際に、本多校長先生に単位のことについてお話を聞いたのですが、小学校の教員免許しかもっていないとなかなか採用試験に受からないし、教育学部以外の学部だと中学と高校しか教員免許が取れなくて逆に小学校で教えられないので、濃南小・中学校では、先生に小学校や中学校の教育免許を取るように勧めているとのことでした。調べてみると12単位で中学校の教育免許が、14単位で小学校の教員免許が取れるので、夏休みなどの期間を利用して単位の取得を促すことで先生方の意識の向上にもつながるのではないかと思います。

○司会（熊崎政策推進課長）

大野委員いかがでしょうか。

○大野教育委員

私が平成元年の時に、鶴里小学校の児童数が126人と聞いて、とても少ないなと思っていたのですが、5年後には同じ状況になる学校がでてくるというのをひしひしと感じております。泉西小もそろそろ単学級になるペースで減少しているとはいえ、泉西小学校区の子どもを泉小学校に通わせるには距離があるので、校舎を使い分けるような形が望ましいと思います。近くに保育園があるので、こども園を作って、かつ、空いた教室は老人の方々が使えるようにするというのも一つの手だと思います。また、トイレや校舎を改修しても、それ以外の箇所が古くなっていくので、必要か不要かを早い段階で判断した上で、修繕等をする箇所を絞って実施していくのが良いと思います。

○市長

地区懇談会に行った際に肥田町の方から駄知と合併するのかということを聞かれましたが、校区をどう編成していくかという課題は、他市では検討しているところも多いのですが、これは住民の皆さんからすると非常に関心が高いテーマであり、統廃合についての今後の考え方を示して

いないので住民の方は不安に感じているのだなと思いました。教育長から地域の学校を統合する「水平」の統合ではなく、小中学校で「垂直」に統合するという話を聞いた時にとっても良い考えだと思いましたが、当面はそのような形でいくのだとすればそれを示さないといけないと感じました。濃南で取り組んでいるように空き教室を教育に有効活用する方法や酒井教育委員が仰られた地域の施設として空き教室を転用していく可能性もあるため、そのあたりを整理した上で、今後の方向性を示す必要があると思いました。

○大橋教育委員

瑞浪市では中学校を統廃合して、恵那市でもそのような話がでてきていますが、これまで教育委員として学校訪問もしてきて、土岐市では統廃合は少し合わないのではないかと思います。

先ほどから話がでています垂直の統合ということで地域ごとに考えていくことをまずは決めてしまった方が良いような気がします。地域の方も安心しますし、土岐市の教育ビジョンを説明すれば理解していただけたと思います。

○酒井教育委員

駄知町の場合は、他地域の学校との統合となると通学時の安全面の課題がありますので、当面は、濃南小・中学校のような垂直の統合が良いかと思いますが、人口の減り方をみると、いずれは限界がくるため、その際には他地域との統合を検討する必要があると思います。

○大野教育委員

本日欠席の加藤教育委員から、妻木町の方ですが、妻木では子どもの数が減っているため、西陵中学校があるなら、西陵小学校があっても良いのではというお話は聞いています。

○大橋教育委員

皆さんのお話を聞いていると、私は5年先の話をしていましたが、10年先ということになると、移住等で人口を増やすことを考えてはどうかと思います。

○市長

濃南小・中学校の取り組みは、5年スパンでみると、駄知など他の地域で活かせると思いました。10年、20年後、子どもの数がさらに減った時には校区の再編等の話になるかもしれませんが、まだ時間的余裕があるため、当面は少人数でも充実した教育ができる環境や施設を有効活用する方法を考えていけると良いかと思います。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。ご意見を活発にいただいているところでございますが、そろそろお時間となりましたので、まとめに入らせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

○教育長

それでは、最後に一つ。瑞浪市は中学校を3つにされたが、小学校の方も児童数が減少してお

り、この点について住民からの意見が多いため、校区審議会で審議されて、当分は現状のままでいくという方向性を示されました。土岐市においても、本日お話しいただいた内容を元にしながら、今後の方向性について、来年度1年かけて考えをまとめて示すことができれば、市民の方も安心されるのではないかと思います。

○市長

校区に関しては、まさに教育委員会の専任事項であるため、審議していただけると有り難いと思います。

○司会（熊崎政策推進課長）

それでは、最後に、本日の会議を踏まえて市長からお話をいただきたいと思います。

○市長

今後の学校施設の在り方という絞り込んだテーマでしたが、土岐市ならではの教育全般についてのご意見をいただきまして、大変有意義であったと思います。子どもの数が減っていくことは明らかなので、大橋教育委員が仰るように人口を増やすことももちろん努力していくのですが、どこの市も同じような状況で難しいことではありますので、今ある施設、今ある体制を踏まえてより良い教育を進めるにはどうしたら良いかということを引き続き議論していく必要があると思います。その1つの見本が濃南小・中学校でありますので、参考にしながらそれぞれの地域に合った手法を考えていただきたいと思います。

○司会（熊崎政策推進課長）

ありがとうございます。本日は、貴重なご意見を多数いただき、ありがとうございます。皆様からのご意見や課題を共有することにより、今後の学校施設の在り方について教育委員会とともに検討していくための第一歩が踏み出せたと考えております。

皆様からご意見をいただき、学校施設のあり方について、校区の再編や小中一貫校など今後の方向性をまとめていかなければいけないという共通の認識が持てましたので、今後は体制づくり等も含めて考えてまいりたいと思います。

続きまして、次第5「その他」についてですが、何かございますか。

特に無いようですので、事務局から連絡をいたします。次回の総合教育会議につきましては、来年度になってからの開催を予定しております。ただし、重点的に講ずべき施策や、緊急性のある問題が発生した場合など、市長と教育委員会が特に意思疎通が必要な場合は、随時開催することとなります。その際は、ご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

また、本日の議事録につきましては、事務局で作成したのち、会議構成員のみなさまにご確認いただくことを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これもちまして、本日の会議は閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

《閉会 午後2時40分》